

地域とともに歩んで百年！

文・菊池恩恵

2カ月に1度、街角の歯医者さんが寄席に変身します。えっそんなことアリ？ あるんです。大阪・池田市の「こいし歯科」。まるで劇映画のセットのような「ほんまち通り」に面した医院の待合室で8年前から隔月で「手水寄席」が開かれ11月で48回目を迎えました。定員20名の募集に毎回40名近い観客が集まり大賑わい。入場無料で口腔ケア用品のお土産付きです。今回も浪漫亭不良雲師匠など三人のアマの落語に続いて恋歯家歯つ恋師匠（小石剛院長）が登場、新作の「歯育て子育て噺」を披露し喝采を受けました。

小石先生は池田の街で医科歯科合わせて百年の歴史をもつ「こいし歯科」三代目の38歳。開業以来、健康の入り口である口腔の健康（健口）づくりをうじて地域社会に貢献することを理念に掲げて診療活動を続けています。

彼の目は常に地域に向いています。落語で町おこしをしている池田ならではの「手水寄席」の他にも、月1回の地域のゴミ拾いや、2歳から自分で作る子ども料理教室「こどもカフェ」、マイナス1歳から始める母親教室の「お口育て教室」など、呼吸や姿勢も視野に入れた「健口・お口育ての3S（食育・息育・足育）」の活動を展開しています。とくに食育は管理栄養士や「食育士」のメン

バーが大活躍。診療も予防歯科と子どもたちの確かな成長を支えるMRC矯正を柱に据えています。

「診療所は地域の一部です。地域に生かされている僕たちの役目は、地域に笑顔と健康を広げることだと思っています」。小石先生はそう言っって人懐っこく笑います。

5年後の夢は医院にPT（理学療法士）やST（言語聴覚士）、OT（作業療法士）の仲間を雇い入れて多職種が連携して「お口を育てる」医院をつくること。そして「地域全体が団結し、健康で笑顔のよりよい世の中に向かって進むネットワークをつくりたいですね」。

地域包括ケア時代に向かって、百年間地域の健康を守ってきた「こいし歯科」と小石剛先生の新たなチャレンジが始まっています。



手水寄席前にて



こいし歯科には子ども達の笑顔がいっぱい！



菊池恩恵(きくち・めぐみ)1953年岩手県出身。歯科医院の経営を支援する株式会社コムネット代表。<http://comnt.co.jp/>

[池田市の歯医者さん こいし歯科 WEBサイト >>](#)